

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

本校では、国語、算数ともに全国の平均正答率を上回る結果となりました。また、無回答の問題はほぼ無く、最後まであきらめずに取り組む姿が見られました。

国語では、昨年度に引き続き「話すこと・聞くこと」についての正答率が全国平均を大きく上回り、強みとなっています。しかし、「書くこと」については正答率が全国平均を下回る結果となりました。複数の資料からわかることを文章で解答する問題で、出題されている条件をすべて満たして答える必要があります。調査全体を見ると、記述式の問題で正答率の高いものもあることから、記述する力は持っていると考えられ、複数の資料から読み取る力、与えられた条件を落とさず書く力を伸ばす必要があると考えています。算数では、どの領域においても全国平均と同じもしくは上回る結果となりました。中でも、「数と計算」の正答率は全国平均を大きく上回りました。

質問紙調査では、「国語や算数の勉強は好き」「国語や算数の勉強は大切」と答えている児童が多く、全国平均と比べると、国語や算数への関心が高い結果が出ています。また、「5年生までの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問では、肯定的な回答の割合が高くなっています。

「人が困っているときは、進んで助けますか。」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問に対して肯定的な回答をする児童が多く、「地域の行事に参加していますか。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」という質問に対しても、肯定的な回答をする児童が多かったです。

「自分には、よいところがあると思いますか。」や「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に、ある・持っていると答えた児童は、全国平均より若干少ない結果となりました。

【指導の充実に向けて】

- ◇国語も算数も、1年生からの積み重ねが大事であると考えています。各学年で基礎・基本の定着に向けて、取組を続けていきます。
- ◇どの教科においても、自分の考えをまとめ、文章で書くことの指導をしていきます。例えば、あらすじをまとめる、自分の意見を述べる・書き表す、複数の条件を満たして文章を書く、グラフや資料・絵・図などを読み取り自分の考えを文章化する活動に取り組んでいきます。
- ◇算数の図形認識では、何年生であっても具体物を使っていくことで理解が深まると考えています。図形分野に苦手意識を持つ子が多いので、具体物を活用し、学びを深めていきます。
- ◇授業の中に「話し合う活動」を取り入れ、互いの思いや考えを聴き合う活動をしたり、効果的にICT機器を活用したりして、学びの質を深めていきます。
- ◇体験活動やたてわり活動を充実させ、一人ひとりが達成感や存在感を感じられる学校・学級づくりに努め、児童の自己肯定感を高めます。
- ◇「朝読書」の時間の内容を発展させて、読書に親しむ習慣を身につけさせるとともに読み解く力の育成に努めます。